資料2

第２回調査会意見と対応

平成27年3月16日(月)

第２回 輸出入コンテナ貨物における鉄道輸送促進に関する調査会での意見と対応

【鉄道輸送利用・機能の実態・課題について】

○アンケート結果を見ると、鉄道輸送がまだまだ知られていない、十分理解されていないのが実情ではないか。
○荷主のトラック不足の認識は低く、トラック不足の情報提供が出来ていない。
○４０ｆｔ背高コンテナは、鉄道で利用できない区間がある等課題もある。積み替え作業等が発生すると、コストメリットが小さいが、距離があればメリットは出る。
○長距離で貨物を輸送している荷主や物流事業者の実態把握も重要である。
○輸出入コンテナ貨物の輸送実態として、中距離の割合が高い傾向にある。その距離帯での鉄道シフトに着目したい。

【課題への対応方策の方向性について】

○アンケート結果において、荷主の関心度が低い傾向にあることから、鉄道輸送を認知して貰うべくＰＲ活動が必要ではないか。
○東京港、横浜港、名古屋港、神戸港などの主要港から鉄道輸送利用を進めてはどうか。
○積み替えなしに運べるような対策をとって欲しい。
○輸送コストの削減に向け、ラウンドユースを絡めたモーダルシフトは重要な視点。
○オンドックレールは最終目標だが、港への優先入場へ取り組む等、段階的な仕組みの検討も必要。
○対応方策については短期的な方策が少ないため、今後、さらに検討が必要。
○荷役機器の配備強化など貨物駅機能の強化を「中長期」ではなく、短期的な方策として検討が必要。
○短期的な取り組みとして、特定の港と貨物駅にて輸出入コンテナ貨物の鉄道輸送モデルケースを設定し、荷主に鉄道輸送を利用して貰うような取り組みも考えられる。

○アンケートの更なる分析や鉄道を利用している荷主や物流事業者との意見交換を通じて、輸出入コンテナ貨物の鉄道輸送への潜在需要を分析するとともに、顕在化に向けた課題を把握。
○鉄道輸送の利用促進に向けた現状の取組みを踏まえつつ、課題への対応方策を短期的な視点も含めて検討。